

Q9：地域ボランティアを学校に招きたいのですが、どのような手順を踏めばよいでしょうか。

ボランティアの定義

A： ボランティアについて統一的に定義することは難しいですが、ここでは、以下のように共通理解します。

「自由意識に基づき、自発的かつ営利を目的とせず、公共的な活動を行う者、又は団体をさす」

ボランティアを招く際の手順

(ボランティアを学校に招き実践する際の手順の参考例)

ボランティアの募集(協力内容や日時等を明確にする)

ボランティアの募集については、次のような方法があります。

(ボランティア・コーディネーターの役割大)

ボランティア・コーディネーター
打ち合せ

ア 学校が文書等を配布して募集する。

イ 公民館などの情報を活用する。

ウ ボランティア自身が学校に働きかける。

ボランティアとの連絡・打ち合せ

効率的な授業・活動を展開するためには必要不可欠です。

役割分担
実績報告書

実践

役割分担とゆとりがある計画の下での実践が大切です。

実績報告書の作成と保管

負担にならないように作成・保管し、次回に役立てる。

保険・謝金

(ボランティアを招く際の留意点及び課題)

保険・謝金

原則的には不要ですが、現実的には、そう言いきれない場合が多いものです。市(町)民保険制度がある自治体、教育委員会が予算化している自治体がありますので、各市町教育委員会等にお問い合わせください。また、PTA 安全共済の利用もあります。

情報のネットワーク化

情報の共有化の促進

行政と学校、学校間の情報共有はもちろん、自治体を越えた情報の共有化も検討する必要があります。

コンテンツ、指導略案バンク

コンテンツ(内容)や指導案バンクへの移行

効率的な運用には、人材リスト、プログラムからコンテンツ(内容)、指導案バンク(授業や活動の流れの略案)への移行が望まれます。

活用から活動へ

「活用(学社連携)」から「活動(学社融合)」へ

学校がボランティアを活用する段階から、地域住民が学校で子どもたちと共に自分たちの活動を行うという形への移行が望まれます。